

鳴門教育大学附属特別支援学校  
学校関係者評価報告書

(令和7年度)

令和8年3月

学校関係者評価委員会

## 学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

### はじめに

本報告書は、保護者、大学教員、地域住民等で構成された学校関係者評価委員会が附属特別支援学校の教育活動の観察や校長他との意見交換等を通じて、附属特別支援学校の自己評価の結果について評価することを基本に学校関係者評価を実施し、その結果を報告書として取りまとめたものである。

### 1 評価の目的

学校評価は、次の3つを目的として実施するものである。

- ① 学校が、自らの教育活動と学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等を評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価を実施し、その結果を公表し、内容を説明することにより、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 学校の設置者が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

### 2 評価のスケジュール

令和7年7月 第1回学校関係者評価委員会

- ・学校評価の目標及び評価項目について説明
- ・学校評価実施スケジュールについて説明

令和8年2月 第2回学校関係者評価委員会

- ・自己評価書に基づき自己評価結果について説明
- ・評価員による学校関係者評価

### 3 学校関係者評価員（令和8年3月現在） ○は委員長

- 橋本 俊顯 徳島赤十字ひのみね医療療育センター 顧問
- 濱田 欣 社会福祉法人アンドーラ GJCかのん・北島, 福祉ホームありの実施設長
- 大谷 博俊 鳴門教育大学 特別支援教育コース 教授
- 原 健二 杉の子会 元会長
- 上野 由佳 なかよし保育園 園長

### 4 本評価報告書の内容

#### (1)学校関係者評価結果

「学校関係者評価結果」では、評価項目（重点目標）①～④の「実施状況」「評価指標の達成度及び成果」を総合的に判断し、「評価根拠」を示し、4段階評価で評価を行っている。

## (2)参考

参考では、自己評価書に掲載されている「学校の現況及び目的」を転載する。

## 5 本評価報告書の公表

本報告書は、鳴門教育大学に提供するとともに、設置者に提出する。また、ウェブページ(<http://www.shien.naruto-u.ac.jp/>)への記載により、広く社会に公表する。

### (1) 学校関係者評価結果について

鳴門教育大学附属特別支援学校の学校関係者評価は、内容を総合して評価した結果、4段階評価中「A 十分達成されている」と判断する。(R8.2.20実施)

(A→十分達成されている, B→達成されている, C→取り組まれているが, 成果が十分でない, D→取組が不十分である)

※自己評価書(学校自己評価)については、ウェブページ(<http://www.shien.naruto-u.ac.jp/>)参照

主な成果として、次のことが挙げられる。

### 重点課題(評価項目)

#### ①個々の障がい特性や発達の状態を考慮した 個別最適な学び, 協働的な学び, 主体的な学びの充実

・特別支援学校におけるSTEAMIC教育の推進

##### 〈小学部〉

1) 学部会では、小学部児童の支援の方向性や支援方法、授業内容などの検討を10回以上行った。学部会では、小学部の教育課程(合わせた指導の位置づけ)や児童の支援方法(構造化、ポジティブ行動支援など)についての研修を行った。学部研究では小学部段階でのSTEAMIC教育の捉え方の共通理解を図ったり、授業づくりチェックシートを活用したりしながら、授業づくりのポイントなどをまとめた。

2) 学部通信や情報共有アプリなどで、小学部全体や各学級の学習活動の様子を定期的に保護者に紹介した。学部懇談(4月, 6月, 1月)では、小学部の児童にとって大切なこと(基本的な生活習慣や遊び, 体験的な学習など)や、学校研究での実践(STEAMIC教育)を説明し、保護者への情報提供や教育の方向性、学習・支援内容の理解を図った。

##### 〈中学部〉

1) 学部研究で作成した「授業計画・単元振り返りシート」を活用しながら、STEAMIC教育を生活単元学習を通して実践することができた。

2) 「働く体験学習」において、各生徒が学習したことをいかして作業に取り組んだり生活したりする様子を見取ることができた。

##### 〈高等部〉

1) 学部会や学部研究会において、作業学習でのSTEAMIC教育の実践を通して、生徒の主体的な学びに向かう姿の見取りについて検討した。本校高等部の合わせた指導について共通理解を図った。

2) 4月と8月の個人懇談で保護者から教育的ニーズの聞き取り, 5・6月に生徒への太田ステー

ジ評価,1・2年生へのS-M社会能力検査を実施した。その結果を学部会で情報共有したり,保護者懇談を実施し,生徒指導や進路指導につなげた。

#### 〈研究課〉

- 1)「主体的な学び」に向かう児童生徒の育成を目指した授業づくりのポイントについては,5月の研究課会で協議して,今年度の指導案に盛り込み5月の全体研究会で周知することができた。また,12月の全体研究会において,授業づくりのポイント(児童生徒の気づき)についての詳細を周知できた。
- 2)次年度以降の研究のテーマに関して,8月の研究課会より協議を7回実施した。また,現在の学校研究の課題に挙げられている「合わせた指導の各教科等との関連」等について,他県の特別支援学校が開催している研修や,研究発表会等に参加して知見を深めることができた。

### ②学校・家庭・地域や関係機関等との連携と社会に開かれた教育課程の充実

・切れ目ない支援と,社会に開かれた教育課程の充実

#### 〈教務課〉

- 1)指導要録に関する教員アンケートを実施し,記述の分かりにくさ等改善が必要な点を把握した。集約した課題を基に,課内検討を3回以上実施し,記述例・表記統一等,指導要録作成マニュアルの改訂案を作成した。
- 2)本実習における自己評価表について,大学担当者と2回以上協議し,評価の客観性を高めるための改訂項目(記述欄の整理・評価観点の明確化等)を整理した。3回以上の課内検討を経て改訂版を作成し,校内研修において周知した。その後,本実習において活用し,事後アンケートを実施して次年度に向けた課題をまとめた。

#### 〈指導課〉

- 1)計画した時期にそれぞれの行事についての内容の検討を行うことができ,学校祭の外部販売や児童生徒会役員選挙については計画以上の回数検討を重ねることができた。運動会・学校祭については,保護者アンケートで約9割の「良かった」との回答が得られた。
- 2)計画通り実施することができた。いじめ防止子ども委員会は,計画よりも多く開催することができた。人権教育研修では,教員アンケートで9割以上の「良かった」「わかりやすかった」の回答を得られた。

### ③特別支援教育のセンター的機能の質的充実

・地域のニーズに即した教育相談,研修等の機会や内容の充実

・地域や徳島県における特別支援教育への貢献度アップ

#### 〈特別支援課・発達支援センター〉

- 1)発達支援センターが所有する教材や書籍の貸出,電話や来校相談に応じた。また,WISC-VやK-ABCⅡなどのフォーマルアセスメントの研修を受け,教育相談で活用した。徳島県立総合教育センターや市町村教育委員会と連携しながら,地域の特別支援教育推進に貢献した。
- 2)児童生徒の発達の段階を捉えたり,粗大運動や微細運動を観察したりすることを通して,指導目標の設定や手立ての検討に活かした。
- 3)全体研修や希望研修を通して,個別の教育支援計画や進路,子どもの支援や見取りについて

学ぶ機会として実施することができた。

#### ④安全・安心な教育環境の整備

- ・各種防災訓練の見直しと、危機管理マニュアルの再構築
- ・児童生徒の目線に立った教室等学校施設の点検の徹底

〈総務課〉

- 1) 新たな視点を踏まえて訓練や研修を実施することで、教職員間の防災や安全への意識の向上や学校の安全体制や危機管理マニュアルの改善を図ることができた。
- 2) 全体研修で子どもたちを取り巻くネットトラブルや情報モラルについての知識を深めたり、ミニワークショップで教員同士によるタブレット活用の情報を共有したりすることができた。情報セキュリティの視点で、校務で使用するデータを主とする情報資産を確認し、その重要性分類を改めて見直すことができた。

#### (2) 学校関係者評価委員からの提言等

- 学校評価シートについては、総合評価Aに異論はない。
- 学校行事が多い。計画的にカリキュラムに取り込むことにより、十分になじむような計画に。
- 巡回相談活動において、研究発表会等の案内を周知してはどうか。
- 研究発表会の全体テーマへの統一感があまり感じられなかった。
- 教員アンケートの結果から教員の理想が厳しいことが感じられた。
- 学校行事等の内容が保護者に正確に伝わっていないのではないか。
- ひきこもり対策について、協力していただけたら。

#### (参考) 学校の現況及び目的

##### I 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属特別支援学校
- (2) 所在地 徳島市上吉野町2丁目1番地
- (3) 学級等の構成
  - 小学部 3学級(複式)
  - 中学部 3学級
  - 高等部 3学級
- (4) 児童生徒数及び教員数(令和7年5月1日)
  - 小学部18人, 中学部18人, 高等部23人 児童生徒数59人 教員数30人(正規教員)

## 2 目的

### (1) 目的・使命

本校の目的は、附属特別支援学校校則第1条において「知的障害及び自閉症の児童生徒に対して、小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を施し、あわせて障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授ける」学校、中学校及び高等学校の要請に応じて、「幼児、児童又は生徒の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努める」と定めている。

また、校則第1条には「鳴門教育大学(以下「本学」という。)における児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属特別支援学校として、次のような使命をもった学校である。

- ①大学と一体となって、特別支援教育の理論及び実践に関する科学研究を行う使命
- ②大学の学部学生及び大学院生の教育実習及び教育実践研究等を行う使命
- ③地域において特別支援教育のセンター的機能を実践的に発揮するとともに、本県の教育の発展に寄与する使命

### (2)教育目標

本校は、校則第1条に示されている目的の達成のため、学校として、また学部としてそれぞれ次のような教育目標を掲げている。

#### <学校教育目標>

児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、教職員が協働し、児童生徒一人一人の特性や発達段階に即し、将来を見据えて教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、他者を大切にしながら、健康で豊かな生活を送ることができ するような児童生徒を育成する。

#### <小学部>

- ① 豊かな心、じょうぶな身体を育てる。
- ② 日常の基本的な生活習慣を身に付ける。
- ③ 興味関心を広げ、自ら取り組む態度を育てる。
- ④ 人とかかわる基礎的な力を育て、集団での活動に参加できる態度を養う。

#### <中学部>

- ① こころとからだの調和のとれた人間力を育てる。
- ② 自他共に大切にできる態度を養う。
- ③ 生活に生かすことのできる知識や技能の向上を図る。
- ④ 個々の「参加」の質を高めて、生活を豊かにする態度を育てる。

#### <高等部>

- ① 心理的な安定を図るとともに、健康な身体と青年期の豊かな心情を育てる。
- ② 主体的に働く意欲や態度、集中力を養う。

- ③ 社会生活に必要な言語・数量に関する基礎的学力および生活技能を養う。
- ④ 人とかかわる中で社会性を身に付け、生活を楽しむことができる力を養う。

### (3)めざす子ども像

本校では、学校及び学部の教育目標に基づき、それぞれ次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

#### <学校全体>

- 明るく、仲よくできる子ども
- じょうぶで、元気な子ども
- よく働く子ども
- カいっばいがんばる子ども

#### <小学部 めざす児童像>

- 心と身体の健康向上に取り組むことができる児童
- 身の回りのことが、必要な支援を得てできる児童
- 学習活動に興味を持ち、主体的に取り組むことができる児童
- 人との関わりを大切に、集団活動に進んで参加することができる児童

#### <中学部 めざす生徒像>

- 健康な身体と調和のとれたころを持つ生徒
- 他者とかわることを楽しめる生徒
- 学びや体験をとおして「分かる」「できる」「こうすればいい」ことを自分から見つけられる生徒
- 自らの興味や関心、楽しみを広げ、様々な生活場面に参加できる生徒

#### <高等部 めざす生徒像>

- 心と体の健康に気をつけて、人や自然を愛することができる生徒
- 進んで働こうとする意欲をもち、チャレンジすることができる生徒
- 自分でできることは自分でし、必要なときは支援を求めながらやり遂げようとする生徒
- マナーやルールを守って積極的に社会参加をしようとする生徒

### (4)令和7年度重点目標

#### ①個々の障がい特性や発達の状態を考慮した個別最適な学び、協働的な学び、主体的な学びの充実

- ・特別支援学校におけるSTEAMIC教育の推進

#### ②学校・家庭・地域や関係機関等との連携と社会に開かれた教育課程の充実

- ・切れ目ない支援と、社会に開かれた教育課程の充実

#### ③特別支援教育のセンター的機能の質的充実

- ・地域のニーズに即した教育相談、研修等の機会や内容の充実
- ・地域や徳島県における特別支援教育への貢献度アップ

**④安全・安心な教育環境の整備**

- ・各種防災訓練の見直しと、危機管理マニュアルの再構築
- ・児童生徒の目線に立った教室等学校施設の点検の徹底